

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年8月12日
【四半期会計期間】	第100期第1四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
【会社名】	小池酸素工業株式会社
【英訳名】	KOIKE SANSO KOGYO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小池 英夫
【本店の所在の場所】	東京都墨田区太平三丁目4番8号KOIKE Bld. 7階
【電話番号】	03(3624)3111(代表)
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長執行役員管理部長 富岡 恭三
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区太平三丁目4番8号KOIKE Bld. 7階
【電話番号】	03(3624)3111(代表)
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長執行役員管理部長 富岡 恭三
【縦覧に供する場所】	小池酸素工業株式会社 関東支社 (埼玉県川口市領家三丁目10番19号) 小池酸素工業株式会社 千葉支店 (千葉県市原市八幡海岸通47番地) 小池酸素工業株式会社 名古屋支店 (愛知県名古屋市瑞穂区牛巻町12番地9) 小池酸素工業株式会社 大阪支店 (大阪府東大阪市高井田西三丁目8番19号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第99期 第1四半期 連結累計期間	第100期 第1四半期 連結累計期間	第99期
会計期間	自2021年4月1日 至2021年6月30日	自2022年4月1日 至2022年6月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高 (百万円)	9,422	10,619	41,834
経常利益 (百万円)	356	863	2,063
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	81	557	995
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	529	899	2,107
純資産額 (百万円)	32,046	34,205	33,693
総資産額 (百万円)	56,480	60,889	59,935
1株当たり四半期(当期)純利 益 (円)	19.75	133.67	239.29
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.31	51.40	51.37

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第99期第1四半期連結累計期間及び第99期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第100期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 1株当たり四半期(当期)純利益の算定においては、信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)を導入し、信託銀行に設定した小池工従業員持株会専用信託口が保有する当社株式を自己株式として処理していることから、期中平均株式数は当該株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、主に米国では持ち直しの動きが見られましたが、中国のゼロコロナ政策による経済活動の停滞や、ロシア・ウクライナ情勢の長期化などにより、未だ先行きは不透明な状況となりました。

また、わが国経済は、設備投資や雇用情勢に持ち直しの動きが見られたものの、エネルギー価格の高騰や世界経済の不確実性が懸念され、予断を許さない状況で推移しました。

当社グループの主需要先である建設業界・産業機械業界・造船業界の市況は総じて回復基調で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画で掲げた「世界市場での顧客満足の実現」に向けた拡販活動の推進や収益力の強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

#### 財政状態

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は608億89百万円で、前連結会計年度末比9億54百万円の増加となりました。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は266億84百万円で、前連結会計年度末比4億42百万円の増加となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は342億5百万円で、前連結会計年度末比5億11百万円の増加となりました。

#### 経営成績

当第1四半期連結累計期間の売上高は106億19百万円（前年同期比12.7%増）、営業利益は5億67百万円（前年同期比293.7%増）、経常利益は8億63百万円（前年同期比142.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億57百万円（前年同期比579.7%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### a. 機械装置

機械装置部門においては、当社オンリーワン技術のDBCファイバーレーザー切断機を中心にお客様の課題解決に直結する製品群を開発するとともに、国内・海外市場において営業活動を強化したことにより、売上高は増加しました。

その結果、売上高は36億1百万円（前年同期比34.9%増）、セグメント利益は2億59百万円（前年同期はセグメント損失1百万円）となりました。

#### b. 高圧ガス

産業ガス分野においては、当社主需要先である建設業界・産業機械業界の工場稼働率が回復するとともに、医療分野において、パルスオキシメーター、酸素濃縮器、酸素流量計、ディスプレイ吸引器のライナー等の販売が好調に推移しました。また、酸素濃縮器レンタル、CPAPレンタルの営業を強化したことにより、売上高は増加しました。

その結果、売上高は46億11百万円（前年同期比3.3%増）、セグメント利益は3億62百万円（同15.5%増）となりました。

c. 溶接機材

溶接機材部門においては、溶接自動化機器の需要獲得や、作業環境改善の提案による新市場開拓に注力するとともに、海外輸出が好調に推移しましたが、一部の商品で半導体不足による長納期化が発生したことにより、売上高は減少しました。

その結果、売上高は21億98百万円（前年同期比0.3%減）、セグメント利益は1億77百万円（同19.3%増）となりました。

d. その他

その他の部門においては、光ファイバーメーカー向けヘリウム回収精製装置等の販売に注力したことにより、売上高は増加しました。

その結果、売上高は2億8百万円（前年同期比150.0%増）、セグメント利益は53百万円（前年同期比1,668.3%増）となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、56百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,910,000
計	17,910,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,522,933	4,522,933	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	4,522,933	4,522,933	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日	-	4,522,933	-	4,028	-	2,366

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 412,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,082,200	40,822	-
単元未満株式	普通株式 28,133	-	-
発行済株式総数	4,522,933	-	-
総株主の議決権	-	40,822	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が5,400株(議決権の数54個)含まれております。

【自己株式等】

2022年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
中国アセチレン株式会社	山口県宇部市大字東須恵3903番地の3	40,100	11,700	51,800	1.15
株式会社エイ・エム・シー	東京都足立区入谷七丁目11番12号	2,000	32,900	34,900	0.77
ケーエム酸素株式会社	茨城県つくばみらい市谷井田504番地1	800	900	1,700	0.04
小池酸素工業株式会社	東京都墨田区太平三丁目4番8号K0IKE Bld.7階	324,200	-	324,200	7.17
計	-	367,100	45,500	412,600	9.12

(注)1. 他人名義として所有している株式は、取引先による持株会「小池酸素工業取引先持株会」(東京都墨田区太平三丁目4番8号K0IKE Bld.7階)名義のうち、相互保有株式の持株残高を記載しております。

2. 上記のほか、信託型従業員持株インセンティブ・プランの信託財産として、小池工従業員持株会専用信託が保有している当社株式30,800株を連結財務諸表および財務諸表において自己株式として表示しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、東光監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,751	13,434
受取手形及び売掛金	10,317	9,500
電子記録債権	2,623	2,409
有価証券	-	220
商品及び製品	3,986	4,654
仕掛品	1,986	2,536
原材料及び貯蔵品	1,546	1,678
その他	681	605
貸倒引当金	280	226
流動資産合計	33,613	34,812
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,769	3,770
機械装置及び運搬具(純額)	907	873
工具、器具及び備品(純額)	844	860
土地	6,462	6,470
リース資産(純額)	1,024	956
建設仮勘定	37	45
有形固定資産合計	13,047	12,975
無形固定資産		
のれん	23	21
リース資産	4	4
その他	277	345
無形固定資産合計	306	370
投資その他の資産	3 12,968	3 12,730
固定資産合計	26,322	26,077
資産合計	59,935	60,889



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	6,176	6,598
電子記録債務	3,427	3,549
短期借入金	4,432	4,395
1年内返済予定の長期借入金	469	467
リース債務	585	554
未払法人税等	536	280
賞与引当金	537	522
役員賞与引当金	72	64
受注損失引当金	42	56
製品保証引当金	125	109
その他	3,683	4,283
流動負債合計	20,088	20,882
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,721	1,599
リース債務	554	510
繰延税金負債	2,413	2,227
再評価に係る繰延税金負債	822	822
役員退職慰労引当金	149	54
退職給付に係る負債	205	208
資産除去債務	15	15
その他	270	363
固定負債合計	6,153	5,801
負債合計	26,241	26,684
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	4,028	4,028
資本剰余金	2,332	2,332
利益剰余金	20,847	21,153
自己株式	814	808
株主資本合計	26,394	26,706
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	2,360	2,253
繰延ヘッジ損益	22	-
土地再評価差額金	864	864
為替換算調整勘定	876	1,171
退職給付に係る調整累計額	312	298
その他の包括利益累計額合計	4,390	4,588
非支配株主持分	2,907	2,910
純資産合計	33,693	34,205
負債純資産合計	59,935	60,889

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	9,422	10,619
売上原価	6,734	7,481
売上総利益	2,688	3,137
販売費及び一般管理費	2,544	2,570
営業利益	144	567
営業外収益		
受取利息	6	5
受取配当金	40	69
受取賃貸料	83	87
持分法による投資利益	2	7
物品売却益	14	26
為替差益	-	101
貸倒引当金戻入額	11	52
雇用調整助成金	86	-
その他	37	10
営業外収益合計	283	361
営業外費用		
支払利息	22	19
賃貸費用	34	37
為替差損	6	-
その他	7	8
営業外費用合計	71	65
経常利益	356	863
特別利益		
固定資産売却益	1	0
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産除売却損	2	0
その他	4	-
特別損失合計	7	0
税金等調整前四半期純利益	351	863
法人税、住民税及び事業税	113	292
法人税等調整額	72	100
法人税等合計	185	191
四半期純利益	165	672
非支配株主に帰属する四半期純利益	83	114
親会社株主に帰属する四半期純利益	81	557

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	165	672
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	64	105
繰延ヘッジ損益	0	22
為替換算調整勘定	312	323
退職給付に係る調整額	12	13
その他の包括利益合計	364	227
四半期包括利益	529	899
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	424	754
非支配株主に係る四半期包括利益	105	144

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、2021年5月10日開催の取締役会において、当社従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブ付与、福利厚生の拡充、及び株主としての資本参加による従業員の勤労意欲高揚を通じた当社の恒常的な発展を促すことを目的として、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)」(以下、「本プラン」といいます。)を導入しております。

(1)取引の概要

本プランは、「小池工従業員持株会」(以下、「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。本プランでは、当社が信託銀行に「小池工従業員持株会専用信託」(以下、「従持信託」といいます。)を設定し、従持信託は、3年間にわたり持株会が取得すると見込まれる規模の当社株式を、取引先金融機関からの借入金を原資として当社からの第三者割当によって予め取得します。その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当社株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。なお、当社は、従持信託が当社株式を取得するための借入に対し保証をしているため、当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、当社が当該残債を弁済することになります。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当第1四半期連結会計期間66百万円、28千株であります。

(3)総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

当第1四半期連結会計期間66百万円

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (2022年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)	
コイケカuttingアンドウェル ディング(インド)㈱	72百万円	コイケカuttingアンドウェル ディング(インド)㈱	73百万円
関西総合ガスセンター㈱	24	関西総合ガスセンター㈱	20
計	95	計	94

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
受取手形裏書譲渡高	114百万円	11百万円

3 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
投資その他の資産	101百万円	105百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
減価償却費	394百万円	370百万円
のれんの償却額	2	2

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	207	50	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	251	60	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

(注) 2022年6月28日定時株主総会の決議による配当金の総額には、小池工従業員持株会専用信託口が保有する当社株式に対する配当金1百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
顧客との契約から生じる収益	2,668	4,464	2,205	9,339	83	9,422	-	9,422
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	2,668	4,464	2,205	9,339	83	9,422	-	9,422
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	2,668	4,464	2,205	9,339	83	9,422	-	9,422
セグメント利益又は損失( )	1	313	148	460	3	463	319	144

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃烧式排ガス処理装置、ヘリウム液化機の製造・仕入・販売が含まれております。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 319百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 300百万円、棚卸資産の調整額 55百万円及びその他の調整額35百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
顧客との契約から生じる収益	3,601	4,611	2,198	10,411	208	10,619	-	10,619
その他の収益	-	-	-	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,601	4,611	2,198	10,411	208	10,619	-	10,619
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	3,601	4,611	2,198	10,411	208	10,619	-	10,619
セグメント利益	259	362	177	798	53	852	284	567

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃烧式排ガス処理装置、ヘリウム液化機の製造・仕入・販売が含まれております。

2. セグメント利益の調整額 284百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 281百万円、棚卸資産の調整額 37百万円及びその他の調整額33百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分析した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
1株当たり四半期純利益	19円75銭	133円67銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	81	557
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	81	557
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,150	4,169

- (注) 1. 当第1四半期連結累計期間の「普通株式の期中平均株式数」について、その計算において控除すべき自己株式に小池工従業員持株会専用信託口が保有する当社株式28,200株(前第1四半期連結累計期間43,800株)を含めております。
2. 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年8月8日

小池酸素工業株式会社

取締役会 御中

東光監査法人

東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 中島 伸一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 杉本 拓司

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 前川 裕之

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小池酸素工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小池酸素工業株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。